



ニュース

マガジン
MAGAZINE

ショopping
STORE

定例会員

Q.読者を探す
SEARCH



木村奈保子の音のまにまに | 第54号

キャスティング・カウチ!? 世界最高峰の女性指揮者を主人公にしたスキャンダルとは？

2023-04-01

WEB連載 | 文化記 | 芸術家生活

コロナのせいで、エンタメ界はどこも厳しい状況で、心配なところ。今年のアカデミー賞受賞作も、全体的に小ぶりな作品が多かったと思う。しかし、そういうときにこそ、マイノリティー文化が躍り出るチャンスだ。「エプエブ」（「エプリシング・エプリアウェア・オール・アット・ワンス」）のようなアジア系年配女優がカンフーで轟ける作品が、オスカーを6冠も勝ち取るとは、誰が想像したのだろうか？

そもそも香港のサモハンに見出されたミシェル・ヨーはカンフースターで主演女優賞。助演女優賞のジェイミー・リー・カーティスはホラー・クインからスターしたコメディエンヌ。私の大好きなB級アクションホラーのスターたちが、彼らの並々ならぬエネルギーによって、厚得不思議な世界観を作り上げた。年配女優二人組を扱う劇に、雑糞が若者向けのめくるいいスピードで、厚得不思議な世界観を作り上げた。高橋文徳をメインにした、タニエル監督によるいまどきの映画なのだから、新鮮だ。

「トップガン マーヴェリック」「アバター ウェイ・オブ・ウォーター」「フェイブルマンズ」などの大作。巨匠作などを押しつけて、B級タッチのアジア系作品による一人勝ちも、もはや歴史に残る感概深さ。

一方、スピリバグ監督のノミネート作品「フェイブルマンズ」は、少年時代の監督が、シネマの道に至るまで、母親を見つめている物語。奔放な母親の話は、共感しやすく、演出はオールドファッション。創作のミュージカル「ウェスト・サイド・ストーリー」も音楽的センスが良く、なかなか残念だった。

私は、40年近く前に、カンサ映画家で「E.T」を招待作として観たことをきっかけに、テレビの仕事から映画界へと仕事をシフトする決意をしたほどのスピリバグ・ファン。

一方で「E.T」を端に、もう映画界から去ろうと思った映画人たちがいたように、時代の変わり目を示した映画監督でもある。なにより、ユダヤの歴史を再考する「シンドラーのリスト」を作るために、生まれきたと私は確信する。

アーティストに年齢は関係ない。それでも映画は常に、時代と社会を写し出す鏡であり、どこかに新しさが必要なのだ。

今回のアジア勢の受賞に触発されて、「RRR」のインド映画人たちは、きっと来年にむけて、よりダンサブルな作品をより新しく、虎視眈々と受賞を狙っているに違いない。

新風を吹き込んでくれるのは、マイノリティのエネルギーだろう。



さて、今回の受賞会場でクラシックを扱う映画「TAR/ター」のケイト・ブランシェットは、私のみならず、多くの映画ファンからも最高のリスペクト女優と受け止められている。

今回は、アメリカアカデミー賞は連したものの、すでに英国アカデミー、ゴールデングローブ賞、ヴェネチア映画祭の主演女優賞を受賞している。

さもありなん。製作総指揮も兼ねたブランシェットは、作品を一人の力で引っ張るタイプなヒロイン映画となっている。

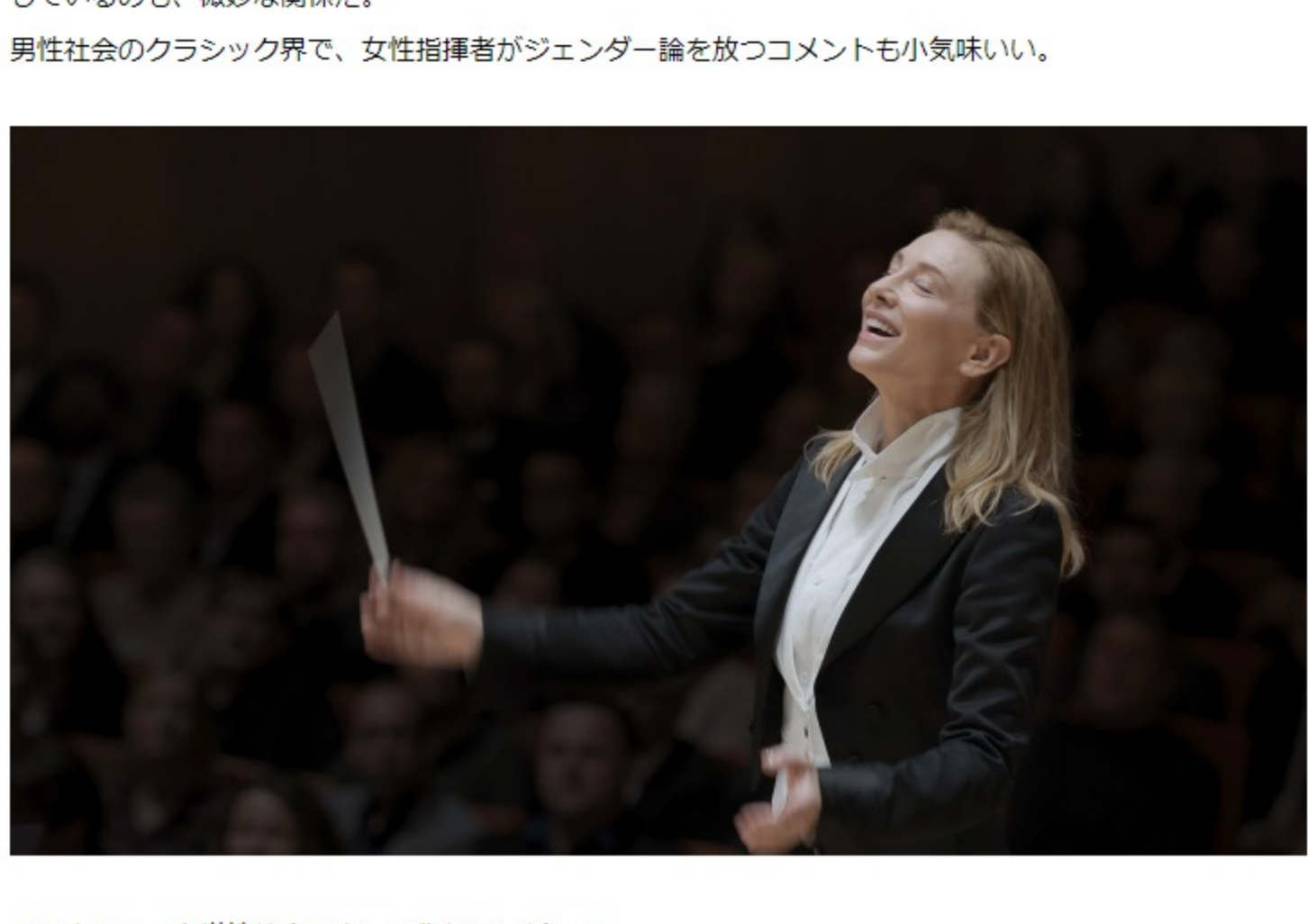
本作は、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の名前を使った架空の物語である。私も、サイモン・ラトルとベルリン・フィルの来日時には、リハーサルを見させてくれるというので、取材からサントラーホールに行ったことがある。もう、素晴らしい。そのとき思っていたのがおぼろげほど、驚嘆と喜びを味わった思い出がある。

こんな超一流の演奏者たちに、どんな人生の境目があるのだろうか？ 知りたくもないし、知る必要もないと思うほど、その「才能」にリスペクトする人は少なくないだろう。しかし、ハリウッド映画界と同様、人権問題が指摘される時代。

本作では世界最高峰のクラシック楽団の指揮者に選ばれし主人公が、どんな人生を見るのか？ 世界中から音楽性を買われ、ドイツとアメリカをチャーター機で移動するセブ生活は音楽家にとっては理想の環境だろう。

非ユダヤ人の主人公がマイノリティである部分は、女性で、レスビアンである点だ。楽団のコンマスと同様しているのも、微妙な関係だ。

男性社会のクラシック界で、女性指揮者がジェンダー論を放つコメントも小気味いい。



そこまでは、多様性社会のキャラ作りで、新しい。前半は、天才ヒロインの紹介がメインで、インテリジェンスあふれるセリフががちはめられる。

しかし、後半から、権力者でもあるこのヒロインが、自分の意に反する者の未来を阻むような行動をした。何より自分の性的趣味で新人を楽団に起用しようとする問題行動まで起こす。

かくして、指揮者が教鞭をとる生徒が、自殺してしまうところから、物語は展開する。キャスティング・カウチ（Casting couch）、つまり肉体的関係と引き換えにキャスティングに便宜を図ることが常態化していた主人公に、疑いがかるのだ。

本作は、ハリウッド映画界よりアカデミックな「ワンス・タイン、MeToo」映画のクラシック版といえるだろう。

テーマが、芸術界のセクハラ、パワハラといった社会的問題を扱うのは現代社会ならでは。ただ、アカデミックすぎる背景のため、その描写が微妙でわかりにくいのが難点。

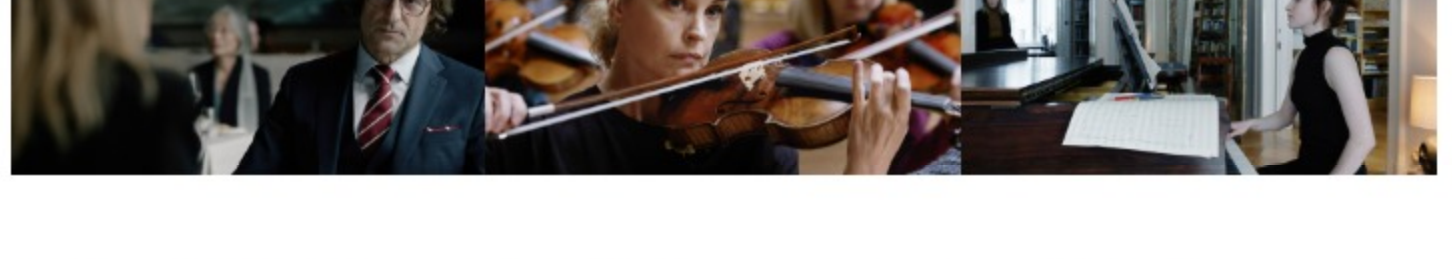
下世話にならない配慮がされすぎているためだろう。

アメリカのケーブルテレビのセクハラ問題を直撃で描く「スキャンダル」（2019/米）とは表現が大きく異なるのは確か。

実際は、クラシック界でも、こうした性的趣味による公私混同の問題はあったと言い伝えられており、それは男社会でのゲイセクハラにあたる。

権力者はいない男性であり、狙われる対象は女性とは限らず、男性であることもある。

それを被害者目線で成功者の裏側をあばいていく人権運動が、いま始まっている。



そんな社会運動がすすむなかで、監督自身が脚本を書いた本作の主人公は、女性である。なぜか？ テーマを扱うなら、過去の指揮者はほとんど男性であり、それを女性にしてレスビアンにし、性的被害者にしたのは……？

私は常々、企業段階で、女性映画を女性的な存在で作るのはもう古く、男性を主人公に作るという作品も、その間のキャラ設定で女性に転じさせるだけのために、と考えている。

が、本作は、主人公が被害者側である。それでも存在に意味が出るのは、ケイト・ブランシェットだけかもしれない。

「あるスキャンダルの夏え書」 「ブルー・ジャズ」の延長上にある創価とセブ落ちのブルーな生きざまは、ケイトならではの過去の美事といえる。

そういうわけで、本作は現代にある問題意識を突くための映画作りではなく、芸術家であるヒロインの成功と転落、再生の物語として見られている。

それにしても、映画の重要な要素を優先させるなら、ベルリン・フィルの名前だけでなくともった。架空の楽団名でいい。音楽ファンからすれば、映画の中で、現役のベルリン・フィルの演奏が聴けるのではないかと期待してしまうからだ。

そんな意味で、一番素晴らしいシーンは、ブランシェットが性的に興味を示す新入り楽団員の若い女性、ソフィー・カウアーがチェロを演奏するところ。

英国系ドイツ人の彼女も、そもそも音楽家。本作では、女優の兼務で登場した。

一音を聴いただけで、ぶるっとくるから、プロと分かる。

やはり、クラシック音楽を背景にするなら、この瞬間がもっと欲しい。

クラシック演奏者で、俳優としての資質があると映画界は助かるのだ。

指揮者レオポルド・ストコフスキーとフィラデルフィア管弦楽団が出演した映画「オーケストラの少女」（37/米）は、音楽家を見事に活用した傑作だった。

本作では、様々な音楽家の名前や音楽論が、映画の中でセリフとして駆け巡るが、音楽よりも、音のほうで、圧倒的に強くなるのではないかと、私は思う。

ジェンダー論が、セクハラがクラシック界のスキャンダルが、天才の心の闇が、あるいは音楽論が、音楽に携わる演奏者たちの視点から、ぜひ、意見を聞いてみたい作品である。

MOVIE Information

「TAR/ター」（5月12日（金）TOHOシネマズ 日比谷ほか全国公開）
【監督・脚本・製作】トッド・フィールド『イン・ザ・ベドルーム』『リトル・チルドレン』
【出演】ケイト・ブランシェット『ブルー・ジャズ』、ノエミ・メルラン『恋する女の肖像』、コナー・ホス『黒ベルリンから来た女』、ジュリアン・グローヴァー『インディ・ジョーンズ/最後の冒険』、マーク・ストロング『キングスマン』
【音楽】ヒドゥン・グッドナught 『ジョーカー』『アカデミー賞作曲賞受賞』
【撮影】フロリアン・ホフマイスター
【編集】モニカ・ウィッリ
【原題】TAR/アメリカ/2022年/カラー/シネスコ/5.1chデジタル/159分/映倫G/字幕翻訳：石田 恭子
【配給】ギャガ <https://gaga.ne.jp/TAR>
© 2022 FOCUS FEATURES LLC.



木村奈保子
作家、映画評論家、映像制作者、映画音楽コンサートプロデューサー
NAHOKI（ナホキ）デザイン、ヒーローインターナショナル株式会社代表取締役
www.kimuranahoko.com

NAHOKI Information



木村奈保子さんがプロデュースする“NAHOKI”は、欧州製特殊ファブリックによる「防水」「温度調整」「衝撃吸収」機能の楽楽ケースで、世界第一線の演奏家から愛好家まで広く愛用されています。

Made in Japan / Fabric from Germany
問合せ＆詳細はNAHOKI公式サイトへ

PRODUCTS

2コンパート・リュック

C筐、H筐のフルートケース、リュックケース、A4ファイルフルート、立体的な小物ポケットがたくさんついたプリーツケース型のリュックバッグです。なんとフルートC筐（50cm）も収納可能です。



>>> BACK NUMBER

- 第47回：巨人の精神分析と映画
- 第48回：世界のカルトと対象喪失によるセラピー映画
- 第49回：『国産』と臨場感
- 第50回：コンプレックスから始まったモリコネの「映画音楽」人生とは？
- 第51回：女王陛下の帝王王と英皇王室にみる男女関係
- 第52回：人と人、連まらぬ心の道
- 第53回：インド映画と奇矯な音楽



Facebook | Messenger | Twitter | LINE | Email | 印刷



インド映画と奇矯な音楽



PDF Download

アルソ出版
発刊楽譜
ダウンロード販売

PDF
スタート！